

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

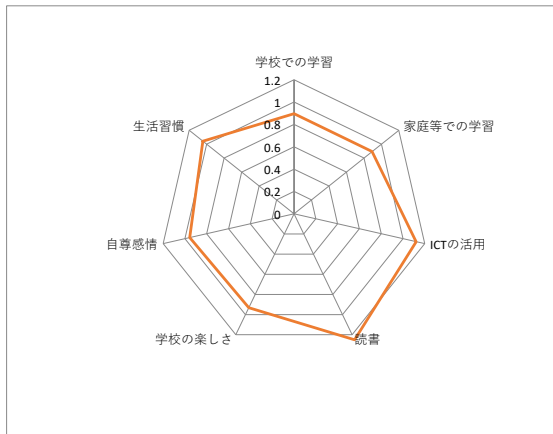
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」に関する問題で、全国平均に比べ正答率が高い傾向にあった。その一方で、言葉の特徴や使い方に関する事項に課題が見られる。また、問題形式について、選択式・短答式の問題の正答率は、全国平均よりも低い傾向があるが、記述式の問題の正答率は高くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題 場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題	
	努力が必要な問題	表現の技法について理解する問題、文脈に即して漢字を書く問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	図形、関数の領域の問題の正答率について、全国平均を上回っているが、数と式、データの活用の領域の問題については、全国平均を下回っている。思考・判断・表現に関する問題の正答率が高い傾向があるが、知識・技能を問われる問題に課題がある。記述式の問題の正答率は高くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象を数式的に解釈し、問題解決の方法を数式的に説明する問題 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の問題	
	努力が必要な問題	自然数を素数の積で表す問題、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味についての問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	「生命」を柱とする領域（生物分野）の問題の正答率について、全国平均を上回っているが、「粒子」を柱とする領域（化学分野）の問題は全国平均を下回っている。知識・技能の定着に課題がある。考えを記述するような問題について、正答率が高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	即足動物の観察結果を比較・分析し、解釈する問題 過去の地震の変動について他者の考察を検討し、改善する問題 化学変化のモデル図を基に化学反応式で表す問題	
	努力が必要な問題	水素の化学変化と質量の関係について分析して解釈する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」といった、基本的な生活習慣が確立している生徒が多い。 ・出された宿題や問題についてはきちんと取り組んでいるものの、自ら問題意識をもって、計画を立てて取り組んでいくことに課題がある。 ・ICT機器を積極的に活用して、学習を進めることができています。 ・読書を好む生徒が多く、1日1時間以上読書を行う生徒の割合が高い。 ・自尊感情が低い傾向があるため、互いの良さを認め合える居心地のよい学校づくりを行っていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 生徒自らが課題を設定し、他の意見を取り入れながら考えを深め、主体的に学ぶ授業を構築する。
- 自分の考えを的確に表現できるような「書く活動」を計画的・継続的に行う。
- 学校行事や学級活動、講演会などを通して、互いの良さを認め合い、高め合えるような学校・学級づくりを行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の習慣化に向けて、学習アプリ等を活用できるようにし、学習の個別最適化を図る。
- 基本的な生活習慣が確立している生徒は多いが、スマートフォン等でのSNSや動画視聴の時間が全国平均に比べて長い傾向